



写真等無断転載禁止

2021. 1 2. 8 発行 ニュースレター第 2 9 2 号

〒262-0019 千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表: 小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com, Home Page: <http://www.ceic.info/>

片貝漁港にソリハシセイタカシギが

大網白里市 平沼 勝男

2021年11月11日10時頃でした。その日は低気圧の影響で強い南風が吹き、海も大荒れでした。片貝漁港（九十九里町）の外側の砂浜の波打ち際を、ミュビシギの群れを追うように撮影をしていた時でした。なにげなく振り返ると、波打ち際に見慣れない白い鳥が2羽いることに気が付きました(写真1)。私の歩いてきたすぐ後ろに飛来してきたようです。一瞬コサギかと思いましたが違いました、ソリハシセイタカシギです、この時は本当に驚きました。目を疑うという言葉を実感しました。



写真1. 出会ったときは波打ち際でした

驚かせないように慎重にレンズを向けシャッターを押しました。1枚目は証拠の写真、緊張の瞬間です。2枚目からは露出を確認して美しい写真を撮ることに専念しました。

しかし数枚撮ったところで飛び立ってしまったのですが、幸いにもすぐ近くの水溜りの池に降り立ちました。撮影続行です。この池で面白い行動を観察しました。長い脚なので上体を下げ、反り返った嘴の下側、丸くカーブした部分を水面に着けて、右、左と横に風ぐ

ような行動を繰り返します(写真2)。このような動作を私は他の鳥



写真2. 嘴で水面を左右に風ぐような動作

で見たことがありません。きっと餌を食べているので

しょう。

渡り鳥にとって、休息や、エサを採る行動はとても大事な時間だと思います。この先も長旅が待っているからです。なので、私はあまり近づかずに遠くからの撮影に専念することにしました。私が所用でこの地を離れる10時40分頃までは2羽ともこの池にいました。餌取りをし、時には休んでいました。

ソリハシセイタカシギはこれまで図鑑や写真でしか見たことのない鳥です。稀に日本にやってくるそうです。じつに美しい鳥で、バードウォッチャーにとっては憧れの鳥です。日本にいる限り、一生観ることが無くてもおかしくはありません。この日は本当にラッキー



写真3. 嘴の反り具合は見る角度で違います
写真と違い実際には同じくらいに見えました



写真4. ハマシギとミュビシギの混群

でした。ソリハシセイタカシギから目をそらすと、近くにハマシギとミュビシギの大きな群れが休息していました。合わせて400羽以上います。その群れが飛び立ち、また同じ場所に舞い戻りましたが、実に壮観な光景でした(写真4)。大荒れの海は私に素敵なプレゼントをくれました。

セミの初鳴き・鳴きおさめの観察

我孫子市 為貝 和弘

昨年と今年、我孫子市の自宅周辺で確認したセミの「初鳴き」、「鳴きおさめ」の日について比較してみました。表を見ての通り、「初鳴きの日」については全ての種類で今年のが早く、「鳴きおさめの日」も殆どが今年のが遅く、鳴いている期間も長かったのがわかります。またクマゼミについては、我孫子市の東部地域では2010年に初認されてから散発的に確認されていましたが、今年は自宅がある西部地域でも3回確認できました(他の地域での確認も多かったと聞きました)。

たった2年間の観察結果なので、原因を推測するのはおこがましいのですが、今年と昨年の日照時間・平均気温等を比較すると、7月の日照時間が昨年は極端に少なく(*2020年-49.3h/2021

年:190.7h)、8月は逆に昨年のが多くなっています(*2020年-282.1h/2021年:201.2h)。また平均気温についても同様な傾向が見られました。*日照時間・平均気温については、気象庁のホームページで確認しました。今後の継続観察の結果に、乞うご期待というところですかね。

年度 種類	2020年		2021年	
	初鳴き	鳴きおさめ	初鳴き	鳴きおさめ
ニイニゼミ	7月10日	8月28日	6月29日	8月28日
ミンミンゼミ	7月21日	9月17日	7月11日	9月24日
アブラゼミ	7月23日	10月2日	7月11日	10月15日
ヒグラシ	7月23日	8月29日	7月19日	9月22日
ツクツクボウシ	8月14日	10月5日	7月31日	10月4日
クマゼミ	-	-	8月5日	8月24日

千葉市水環境保全計画策定に関わるセミナーに参加しました

NPO法人千葉まちづくりサポートセンター 千葉市美浜区 栗原 裕治

2021年11月21日、千葉市立新宿公民館で実施された千葉市環境生活部の千葉市水環境保全計画策定に関わるセミナー意見交換会に参加しました。



新宿公民館での会議と同時に、ZOOMでも議論された(右上)

参加者は私も含めて長く視線環境問題に関わっていた人が多く、知っている人が何人も参加していました。意見交換会では、市川市在住の佐野郷美さんと同じグループになりました。

参加者の話を聞いていると、現在の課題が10数年前の県が生物多様性戦略を作ったころとほとんど変わっていないことに気づかされます。

現在でも特に関心の強い一部の人のみだけで、これらの人たちが千葉の谷津田や里山を護ってきたように思います。当時から積極的に関わってきた人は、高齢化が深刻な様子です。

生物多様性を知る人は多くなっていますが、積極的な若いファンは思ったほど増えていないようです。ライブの会場などが整備され、よい音楽が聴け

るコンサートが行われれば、音楽ファンは増えるし、それが日常に浸透していきます。

農業や工業などと同様により環境や学習の場をつくり、体験や経験ができるようになれば…、そうした機会を作っていくのは、なかなか悩ましいところです。

言い尽くされていると思いますが、千葉市の課題は、ほぼ出尽くしている課題を繰り返し積み上げていくのではなく、千葉市全体が新たな生物多様性の保全や活用に向かって考え行動していけるようになるかということでしょう。

難しい理屈や言葉ではなく、どうしたら生物多様性に強い関心を持つファンを増やせるかということでしょう。

環境保全部の取り組みの冒頭に神谷市長が率先して繰り返し参加することで、教育委員会や公園緑地

関係部署その他を含む全庁的な取り組みになっていきます。リーダーの影響力はあなどれません。県の生物多様性戦略の時は、当時の堂本知事が率先していろいろなイ



座長は中村俊彦元千葉県立中央博物館副館長

イベントに参加していました。

また、これまでの社会を引っ張ってきたヨーロッパの実存主義が限界を迎え、曲がり角に来ているこ

となど、もっと大きな根本的な価値観の変化が、起こりそうな気がします。物資ではない人間の内面が科学的に証明されはじめており、その中心的な規範を生物多様性が担っていくように思います。



千葉市における水環境の問題などを皆で出し合い協議した

社会のパラダイムシフトの方向は、その時代ごとのファンの増減によって決まってきました。生物多

様性戦略づくりは遅れましたが、千葉市にとって、他に追従していくのではなく、そうした未来を自らが見据えることが重要だと考えます。

報道などでは、地域資源の活用で世界遺産を目指す試みが各地でブームになっています。千葉市では、加曾利貝塚が縄文遺跡として世界遺産に登録されなかったのは、貝塚の上にまで宅地が広がってしまったことでした。

これは、いずれ充分な研究できるようになるかもしれませんし、世界に誇れる最大級の遺跡であることに間違いありません。この資産と未来の生物多様性をうまくつなげてはどうでしょうか。これは生物多様性をもっと見える化し、一般のファンを増加させていく大規模プロジェクトです。

そのために行政関連部署だけでなく関心のある市民や地元企業などへの窓口を広げて、それらを生物多様性で関係を紐づけします。この紐づけを一緒に考えて整理して見ませんか。(写真:田中正彦)

生物多様性ってなあに「いのちのにぎわいとつながり連続講座」

ちば環境情報センターでは、以下の連続講座を実施します。この講座で、豊かな自然が残る谷津田の保全の重要性と野生動物による影響について知り、米づくり体験を通じて生物多様性の大切さを学びます。
主催：NPO法人 ちば環境情報センター、 参加費：無料、 申し込み：090-7941-7655 (小西)

第1回 イノシシ被害が増えています

日時：2022年1月9日(日) 9:45~12:00

会場：下大和田谷津田

講師：相川博宣さん(千葉市猟友会)

第2回 谷津田に行ってみよう

(1) 初めての谷津田 キックオフフォーラム

日時：2022年2月26日(土)13:30~

講師：原慶太郎さん(東京情報大学教授)

演題：(仮) つながる 生物多様性の大切さ

生物多様性とは何か、生物多様性と生態系サービス、里山の生物多様性の保全と利用

(2) 谷津田で米作り 田植え、稲刈り体験

この事業はSAVE JAPANプロジェクトの助成を受けて開催いたします。

新浜の話46 ~ゾウリムシのゼリー~

この当時のことは、1990年5月に出版されたNTT出版の「水鳥が戻ってきた」に詳しく書きました。自分の本なのに、わが家にはもう残っておらず、とうとうアマゾンに注文して中古本を取り寄せまし

保護区の中に行徳野鳥観察舎友の会(現在は「行徳自然ほごくらぶ」)がトヨタ財団の研究コンクールの助成金で造成した新しい池。着工は1987年8月19日、池の造成が終わって水を入れ始めたのは同年8月30日。また、2面ある池のうち「下池」に水が回ったのは、2つの池の間の土手の切れ目に水路を掘って水が届くようにしてから後、9月7日のことでした。1987年8月。延々8カ月もかかった書類作成と申請、そして許可待ちの時期が過ぎ、工事許可が下りて、いざ着工にこぎつけてみると、わ

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

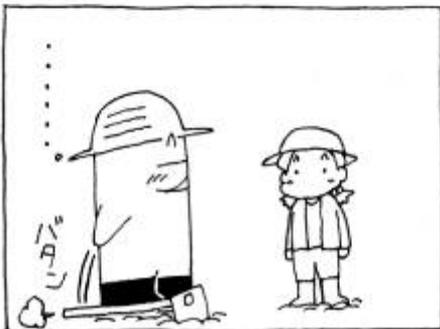
た。もっと早くそうしていればよかった。案の定、日付にもできごとにもいろいろと記憶違いがありました。先号に書いた内容の誤りをまず訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

ずか10日で完成した新しい池。私たちみんなが有頂天でした。

私の担当はパックテストによる水質調査です。毎日のように新しい池を見に行き、せっせと水質の測定をやっている時、奇妙なものに気づきました。池の底に半透明のゼリー状の小さなかたまりが沈んでいるのです。大きさは1ミリくらい、見渡すかぎり、水底一面にうっすらと積もっていて、わだちの跡などでは手ですくえるほどでした。水を入れ始めてから3日後くらいに気がついたと思います。

スロマン ②

作: 7月
あきこ



この話は事実を元に創作しました
つやまあきこウェブサイト
21世紀絵本COJIN <http://www.21eca.net>

この正体は、正直なところ、正確にはわかってはいないのです。当時は水を順調にポンプアップすることに必死で、専門機関に依頼して調べていただくようなことにはとても手がまわりませんでした。それでも9月19日になって「東邦大の妖怪さん」こと高崎隆志さんに顕微鏡で見ていただいたところ、せん毛虫類（いわゆるゾウリムシ）とその死骸、あとは手持ちの顕微鏡の倍率ではなんだかよくわからないもの（バクテリア類）だったそうです。つまり、このゼリー状のかたまりはバクテリアやゾウリムシのような微生物が、栄養となる有機物がたっぷり含まれ、さらには酸素がじゅうぶんに供給された浅い池の中で、爆発的に増えたものだったと思われます。造成当初、池内にはこうした微生物を捕食する生き物がまだ育っていなかったことも、この奇妙な現象が見られた理由と思います。

半透明のゼリー状のかたまりは、10日もすると増えてきた藻類に覆われて目立たなくなり、3週間ほどで目につかなくなりました。それから、次々にいろいろな生き物が増え始めました。

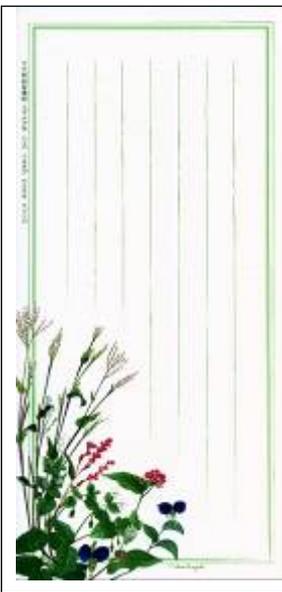
水入れ後3週間ほどたった9月21日、水質調査で水面に浮く草くずをよけて水をとったら、ヤゴが何匹もいっしょにとれたことも。採水時は暗かったので、帰ってから調査のためにサンプルびんをずらりと並べたところ、何かが泳いでいるのに気づいてぎょっとしました。この時は少なくともイトトンボのヤゴが3尾、ミジンコもいくつも泳ぎ、羽化したユスリカの脱皮殻も10以上ありました。

たしか、水入れを始めてから4週間後。水から突き出した草の茎につかまっているヤゴの脱皮殻を見つけました。おそらくウスバキトンボ（でよいと思う）。1カ月もたたないうちに、できたばかりの池の中で育って、もう成虫のトンボとなって羽化してくれたのです。

下大和田谷津田の植物を描いた一筆箋ができました

谷津田を広く知っていただくため、会員の森口ゆかりさん（テキスタイルデザイナー）にお願いし一筆箋を作っていただきました。一年間谷津田に通って植物をスケッチして描いて下さったものです。希望者にお分けいたします（無料）。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。また、ホームページにも掲載しております。



コブナグサ、ハコベ、イヌタデ、ツルクサ、ミゾソバが描かれた一筆箋。図柄は四季ごとに11種類あります。



【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2022年 1月号（第293号）の発送を 1月7日（金）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所〒 _____

ふりがな _____ 氏名 _____ 男 女 Tel _____

E-mail _____ FAX _____

編集後記：各地でイノシシの被害が問題になっていますが、下大和田でもいたる所で畦が掘り返されています。日中6頭の群が目撃されるなど、大きな問題になっています。そこで、イノシシの田んぼへの進入を防ぐために、竹で組んだ柵を田んぼを囲むように設置しました。その効果か、設置後1週間経っても田んぼへの進入は無いようです。今後どうなるか注目です。mud-skipper

○ 11月期の活動、脱穀と籾摺り、そして来年度の田作りへ

11月6日に緑米の脱穀を行い、今季収穫されたすべてのお米の脱穀を終えました。同時に全体の畦の整備と水回りの調整など、次年度に向けた田作りが始まりました。11月27日には土気 NGO さんの古民家をお借りして籾摺りを行いました。今年のお米は昨年以上の豊作で、朝9時から午後3時頃まで2台の籾摺り機がフル稼働でした。

お茶タイムには土気 NGO さんのスタッフの方とも田んぼに係わる色々な話題を交換することが出来ました。充実し、とても楽しい一日でした。参加5名(大人5名)

【谷津田・季節のたより】

下大和田町

報告：網代春男

11月 2日 ジョウビタキ来る。

11月 3日 アオジ声する。

小山町

報告：たんぽぽ

11月 8日 初霜、ジョウビタキの声

11月中旬～ 最低気温が10℃を下回る日が続く。イノシシが度々来襲。

11月27日 今年もルリビタキがやってきた。

【イベントのお知らせ】

谷津田ってどんなところ？と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなど思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、初めての方も好きなときにご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろんお一人でも気軽にいらしてください。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止や日程変更がありますので下記連絡先まで問い合わせてください。

主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL.090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

ご注意：・車で来られる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などに置かないでください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくなどご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴でご参加ください。

・けがや事故のないよう十分注意は払いますが、基本的には自己責任でお願いします。

・三密を避けるよう意識して行動してください。

<下大和田谷津田>

・第272回 YPP「収穫祭」

日時：2021年12月11日(土) 9時45分～14時 雨天中止

場所：下大和田 わいわい広場

持ち物：お椀とお箸、マスク着用、長袖長ズボンの服装、帽子、ゴミ袋、飲み物、敷物。

参加費：200円(小学生以上)

・森と水辺の手入れ

日時：2021年12月19日(日) 9時45分～12時 雨天中止 キノコ植菌木の伐採。

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物。 参加費：無料

・第264回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い&生物多様性ってなかに「いのちのにぎわいとつながり連続講座」第1回「イノシシ被害が増えています」

日時：2022年 1月 9日(日) 9時45分～14時 雨天決行

内容：鹿島川合流部まで巡ります。合流部近くの伊勢戸銘木店で千葉県猟友会の相川氏のお話を伺います。

持ち物：マスク着用、筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、弁当、敷物

参加費：観察会のみ100円(小学生以上)

<小山町谷津田>

・第199回 小山町 YPP「畦の整備」

来年度の米作りを前に冬の間、十分時間をかけてしっかりと田作りを行います。

日時：2021年12月18日(土) 10時00分～ ☆小雨決行

場所：りんどう広場

※ 一般の方の参加も若干名受付ます。

参加ご希望の方は、tomizo_i@nifty.com 赤シャツ親父 までご連絡下さい。

